

高等教育推進センターニュースレター

CeRPHE Newsletter

発行：関西学院大学教務機構高等教育推進センター
Center for Research into and Promotion of Higher Education

2016年11月1日 (11号)

LUNAの利用実績とお知らせ	1
LUNAの活用事例紹介	2
FD講演会・ワークショップ実施報告	6
教育支援ツールの紹介	7
お知らせ	8

＝ 第11号発行にあたって ＝

毎号、LUNAの活用事例を紹介しておりますが、今回はコミュニティ機能を利用したゼミ選考での活用事例、Webレスポンス機能を利用した大規模教室でのリアルタイムな受講生とのコミュニケーションの事例をご紹介します。LUNAの活用場面や活用方法の幅の広さを実感いただける内容です。特にWebレスポンスは、学生が自らのスマホを利用して教員が出題した問題に回答し、教室全体の回答の集計結果を即時に共有できるシステムです。センターの実験では、大教室であっても平均すると10秒ほどで学生はアクセスと回答を完了します。作問・出題ともに、LUNAを通じて作業ができます。

また、後半では各種イベントの報告に加えて、教育支援ツールとして「モバイルICカードリーダー」のご紹介もしております。詳細は本文に委ねますが、出席管理にお悩みの教員の皆様にはぜひ一度試していただきたいシステムです。

センターでは、LUNAに限らず、本学の教育技術・環境の向上に資するべく、様々な機会やツールを準備しております。皆様のご参加・ご利用をお待ちしております。

高等教育推進センター副長（高等教育推進センターニュースレター編集長）中野 康人



◆ 2015年度のLUNAの利用実績は昨年度を上回りました

2015年度の利用実績の集計を行いました（下表）。

指標項目	指標の定義	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
1 LMSを利用する授業科目の比率	全開講科目数(大学・当該年度)に対するLUNAを利用する科目の比率。(LUNAを利用するとは「お知らせ・教材・掲示板など」に教材や記事が掲載されている科目とする。)	12.2%	34.6%	35.7%	38.7%	40.4%	43.8%
2 LMSを利用する専任教員の比率	全専任教員に対するLUNAを利用する専任教員の比率。(LUNAを利用する専任教員とは「お知らせ・教材・掲示板など」を利用している科目がひとつでもあることとする。)	53.9%	59.4%	60.9%	69.8%	73.5%	76.2%
3 LMSを利用する学生の比率	LUNAにアクセスした学部学生数 ÷ 在籍学生数(学部) (1回でもLUNAのページにアクセスしたらカウントする。)	65.8%	85.9%	89.0%	92.0%	92.5%	92.3%

LUNAを利用する授業科目の比率は43.8%、専任教員の利用率は76.2%、と過年度実績を上回りました。また、学生の利用率は92.3%と前年度とほぼ同じ実績で推移しました。

◆ LUNAサポートでは以下のサービスを提供しておりますので、ご利用ください

- ◎電話・メールサポート…電話やメールにてお問い合わせをいただければ、サポートします。
- ◎出張サポート ……研究室に直接訪問し、サポートします。個人、複数いずれでも対応します。
- ◎来室サポート ……高等教育推進センター事務室へ来室いただければ、その場でサポートします。
- ◎学生向け説明会……先生に代わってLUNA の操作方法のオリエンテーションをおこないます。
- ◎ハンドブック ……教員向け・学生向けを準備しており、毎年度全教員、新入生に配布しています。
- ◎LUNAサポート……LUNA 内に詳細なオンラインマニュアルを掲載しています。



経済学部 久保先生のご活用事例

- ・LUNA を使っている科目・コミュニティ
 ⇒経) 研究演習 I14 (2016 通年・水・2)
 ⇒経研前) 経済学史 A (2016 春・木・2)
 ⇒経) 経済の歴史と思想 2 (2016 春・金・1)
 ⇒経済学部久保ゼミ 2016 二次募集 面接日時調整
 ⇒経済学部久保ゼミ四期生 (予定) のコミュニティ
 他多数
- ・LUNA で利用している機能
 ⇒お知らせ、掲示板、コンテンツ、課題レポート、コミュニティ

◆ゼミでは選考時からコミュニティを使い、面接のスケジュール管理や面接資料、指示など掲載しています

◆講義では学生のインセンティブを高める仕組みとして、課題レポートやコンテンツを利用しています

<ゼミ選考のコミュニティでは>

ゼミ選考コミュニティ
メンバー：応募者

再作成

- 学部事務室からのゼミの応募者リストでコミュニティを作成
- 面接スケジュール
「掲示板」で予約⇒コンテンツで発表
- 面接資料
「教材・課題・テスト」の「コンテンツ」に掲載し、あらかじめ読んでおいてもらい面接でその内容について尋ねる
- 連絡事項
全てメール配信設定で「お知らせ」に掲載⇒履歴が残る

内定者コミュニティ
メンバー：合格者

再作成

- 授業前に合宿があり科目に履修者が紐付いていないため、コミュニティを利用
- 合格者だけでコミュニティを再作成
 - 合宿の事前準備の指示
全てメール配信設定で「お知らせ」に掲載⇒履歴が残る

<ゼミでは>

履修者とメンバーが
同じ場合：
LUNA の科目に
移行して運用
差異がある場合：
コミュニティで
運用

- コミュニティはメンバーを柔軟に登録・削除が出来る
ゼミのメンバーと授業の履修者は、留学プログラムへの参加などにより、必ずしも一致しない
コミュニティだと柔軟に対応できるので、状況に応じて、科目とコミュニティを使い分けている
- 連絡事項は全てメール配信設定で「お知らせ」に掲載⇒必ず履歴を残す
- 掲示板
 - ▶本を読ませる仕組みとして利用
例) ゼミの2日前までに本を読んで
報告者以外・・・“要約”・“疑問点”・“論点”を投稿
報告者・・・それらを見て報告準備
 - ▶他の人からも見えるようにし可視化し、進捗状況も管理する
 - ▶班分け (LUNAのグループではない) し、他の班からも参照できるようオープンに利用

ココ大事!

< 講義での利用 >

●コンテンツ

▶講義授業では、見知らぬ履修者同士が刺激し合えるような環境作りのために利用

リアクションペーパーの内容を、姓名のイニシャル付きで紹介し、教員からのコメントを添えて LUNA に掲載
リアクションペーパーの入力作業はボランティアの学生にってもらうことにより、省力化

▶講義で配布しているものを全て PDF 化し LUNA に掲載

●課題レポート

▶中間試験の結果について自己採点結果を回答させる

ちゃんと回答したものについては、中間試験結果を「課題レポート」の結果として送信する

【使用して良かった点】

- ゼミの面接予約は、学生は大学にいらなくてもメールさえチェックしていれば遠隔で予約を入れられる
- 学生の学習状況のある程度管理して、授業での取り組みにインセンティブを与える方法として利用できる
- 連絡事項の履歴がサーバに残る
- 資料の事前配布ができる
- コミュニティのメンバーは科目の履修者などの枠をこえて柔軟に選定できる

【課題】

- 主にゼミなどの少人数単位に LUNA を利用しているが、大人数の講義科目でも機能できる事例を積み上げたい
- メーリングリストのように利用したい
学生は LINE ばかりで一般的なメール文が書けないため、学生からも「お知らせ」メールを利用してメールスキルを向上させたい
- 教室内だけの閉じた環境で、授業中の学生たちの見解をリアルタイムに投稿させたい
- 成績に絡めないとインセンティブが弱いので、公平な機会が保証できるような情報システムの整備が必要と感じている
- 大人数教室であってもシステムがきちんと機能し、出席率を上げる工夫がいて考えている
予習・復習、授業参加、講義を聴く以外の部分をサポートするツールとしてシステムを利用したい

ご要望・他に利用してみたい機能は？

- ほとんどの学生がスマートフォンを持っているので Web レスポンスの利用に興味がある
- Web レスポンスは授業中にリアルタイムでリアクションを把握できるので、教室内など IP アドレス制限などで限定した空間で参加させたい
- Wiki は必然性のあるものだったら使ってみたい

ここでご紹介させて頂いた機能は LUNA サポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください



LUNA サポート → LUNA の操作方法【教員用】(左側のメニュー)

- ☆▶連絡事項の掲載(お知らせ)▶お知らせの作成方法_編集・削除.pdf
- ☆▶掲示板機能▶フォーラムの作成.pdf、スレッドの作成.pdf
- ☆▶教材(授業資料)の掲載▶教材_コンテンツ_の作成.pdf
- ☆▶課題レポート機能▶課題レポートの作成.pdf、課題レポートの採点.pdf
- ☆▶Web レスポンス



社会学部 立石先生のご活用事例

- ・ LUNA を使っている科目
⇒リスクの社会学
【クラス規模】 300名～ 【授業形態】 講義系
- ・ LUNAで利用している機能
⇒Web レスポンス、グループ機能、掲示板
お知らせ、教材の配布

大教室での授業でも、授業時間中に自分の考えを表現させるために Web レスポンスを利用

◆授業中に 1 ～ 3 回 Web レスポンスを利用します。

【学生が Web レスポンスに参加し易くするための工夫】

- ◆各回の授業のはじめに、Web レスポンスを使用することを学生に通知しておきます。あらかじめ LUNA にログインし、Web レスポンスの画面まで進んでおくよう、アナウンスします。
- ◆Web レスポンスへのアクセスについてマニュアルを初回の授業で配布し、注意事項を伝えておきます。
- ◆「KG Portal」アプリから LUNA へのアクセスを推奨。← スムーズに LUNA へアクセスできます。
- ◆回答時間を 90 秒に設定。← 通信状況を考慮して、回答時間を長めに設定します。

Web レスポンスとは

教員と学生のリアルタイムな双方向コミュニケーションを実現し、アクティブ・ラーニングを支援するクリックシステムです。

予め登録しておいた問題を出題し、学生は手持ちのスマートフォンのウェブブラウザから回答を送信することができます。送信された回答は、即時に集計され結果を表示することができます。

◆参加する意思のある学生は、回答できています。← 毎回 180 名程度、回答があります。

- ◆スマートフォンを持っていないと申し出る学生はいませんでしたが、通信量や通信速度の制限があるので回答が難しいと申し出る学生は少数いました。

Web レスポンスは学生のスマートフォンを利用します。

学生が「スマートフォンを持っていない」、「スマートフォンのパケット契約が定額サービスになっていない」、「教室に電波が入らない」等の可能性があることをご理解いただき、ご利用ください。

【課題】

- 問題等の設定と出題する入口を同じにしてほしい。(現状：問題作成は科目ツールから、出題は科目メニューから)
- 出題画面の回答時間の窓が設問と重ならないようにレイアウトしてほしい。
- 回答結果の CSV ファイルに学生番号の情報がほしい。(現状、学生番号ではなく氏名のみ)
- 回答を集計した結果の画面に正解の表示がほしい。(正解のある出題の場合)
- アンケートとして利用する際、回答結果を「匿名化」できないか。
(回答者リストは出力されるが、それと回答内容が連結していない)

<教員 PC からの出題画面>

選択式問題 (制限時間あり) 回答時間
57

事故に対する責任のとり方(とらせ方)として、後ろ向きの責任モデルと前向きの責任モデルの二つを紹介しましたが、あなた自身の考えに近いのはどちらですか。

問題作成時に、回答時間を設定できます。

- A 後ろ向きの責任モデル
- B どちらかといえば、後ろ向きの責任モデル
- C どちらかといえば、前向きの責任モデル
- D 前向きの責任モデル

回答締切ボタンで、問題を締め切ります。
回答集計画面に遷移します。

回答締切

講義ID:20151001

<教員 回答集計画面>

R2:前向きの責任か後ろ向きの責任か		配布人数:20人
事故に対する責任のとり方(とらせ方)として、後ろ向きの責任モデルと前向きの責任モデルの二つを紹介しましたが、あなた自身の考えに近いのはどちらですか。		
A	後ろ向きの責任モデル	10人
B	どちらかといえば、後ろ向きの責任モデル	4人
C	どちらかといえば、前向きの責任モデル	3人
D	前向きの責任モデル	3人
E		0人

<学生 スマートフォンの回答画面>

BeeDance
beedance.kwans... Yahoo!検索

回答時間
84

事故に対する責任のとり方(とらせ方)として、後ろ向きの責任モデルと前向きの責任モデルの二つを紹介しましたが、あなた自身の考えに近いのはどちらですか。

画面を開いたタイミングでスタートし、カウントダウンします。

A 後ろ向きの責任モデル	B どちらかといえば、後ろ向きの責任モデル
C どちらかといえば、前向きの責任モデル	D 前向きの責任モデル

選択肢を2度タップすると回答できます。

ここでご紹介させて頂いた機能はLUNAサポートにマニュアルがございますので、ぜひご活用ください

LUNAサポート→LUNAの操作方法【教員用】(左側のメニュー)

☆Web レスポンス▶Web レスポンス操作マニュアル

FD に関する講演会 —2016 年度新任教員研修—

開催日時：2016 年 4 月 9 日(土) 9 時～ 15 時 30 分

講 演：平林 孝裕氏(高等教育推進センター長)

本学に新たに着任した教員を対象とした、新任教員研修が 4 月 9 日に開催されました。

村田治学長より、「関西学院大学の教育目標」についての講演をはじめ、教務機構、研究推進社会連携機構、大学図書館より各制度・業務についての説明があり、午後からは高等教育推進センター主催の LMS (LUNA) 講習会と FD に関する講演会「『授業に関する調査』結果からみる本学の教育状況について」が開催されました。

FD に関する講演会では、平林高等教育推進センター長より、アクティブラーニングのための教育支援ツールの紹介もまじえながら、前年度に実施された授業調査の結果報告書をもとに、本学学生の学習時間や授業の満足度についての分析を説明しました。

また本学では、教員個人の FD 活動を推進するだけでなく、提供部署単位での FD 活動や全学的な FD 活動を推進していることを紹介し、参加者に積極的な協力を依頼されました。講演終了後に実施したアンケートからは、「今後授業を創り上げていく上でのヒントをたくさんいただいた」、「全体の取組みがよくわかってためになった」等、満足度の高い意見が多く寄せられ、今後の FD に更なる意欲を感じさせる有益な講演会となりました。



FD ワークショップ：大学教員のための『講義方法のブラッシュアップ』B

開催日時：2016 年 9 月 8 日(木)～9 日(金)

講 師：倉茂 好匡氏<滋賀県立大学理事兼副学長(教育・学生支援担当)>

このワークショップは、「関西地区 FD 連絡協議会新任教員向けプログラム」との共催事業として、2011 年より「講義方法の基礎 A」と隔年で実施されており、専任教員、非常勤講師及び大学で講義担当を目指す後期課程の大学院生等を対象に、1 日目のみ、2 日間連続参加の選択が可能となっています。

今回は、視聴覚教材の使用法、アクティブラーニングの進め方、ルーブリック評価に関する講義を、実践を交えながら行われました。参加者数は初日が 26 名（関西学院大学から 13 名、関西地区 FD 連絡協議会加盟校等から 13 名）、2 日目が 22 名（関西学院大学から 10 名、関西地区 FD 連絡協議会加盟校等から 12 名）でした。

なお、当日のプログラムと感想は以下の通りです。

9 月 8 日(木)

講義「視聴覚教材を用いる授業のために」
講義「授業に学生を『参加』させるには」
ワークショップ「宿題と評価」

9 月 9 日(金)

講義「ルーブリックによる評価」
個人ワーク・グループワーク「ルーブリックを作ってみよう」



- ◎他分野の指導案、ルーブリック等のプレゼンをきくことで、学びを深めることができた
- ◎後期の科目運営にすぐ使える内容でよかったです
- ◎ルーブリック講座の続編をききたい
- ◎アクティブラーニングの具体的方法が大変参考になった

クリッカー講習会

高等教育推進センターでは TurningPoint と Web レスポンスの2種類のクリッカーシステムを提供しています。2016年度はそれぞれについて実際に授業で活用されている先生にお話しいただき、その後システムの体験会を実施しました。

<TurningPoint 講習会>

5月10日(火)に、授業で TurningPoint を使用している国際学部の本本教授より、活用事例をお話しいただきました。本本教授は TurningPoint を使った小テストを毎回実施し、学生の理解度の把握や成績評価に活用されています。

TurningPoint は通信状況に左右されないことが特徴で、その他にも匿名アンケートなどとしての使い方も可能です。

<FD 研修会 (兼 Web レスポンス講習会)>

9月15日(木)、社会学部の中野教授より Web レスポンスの活用事例をご紹介いただきました。ログインから回答完了までの時間の分布や接続状況について説明があり、学生からは「各個人が端末を使って参加するのは面白い」など前向きな感想が多数寄せられたとの報告がありました。

Web レスポンスは、LUNA と科目情報や履修データが連携されていることが特徴です。また、学生のスマートフォンを使用するため、機器の配布・回収に時間がとられません。

新システムのご紹介

<モバイル IC カードリーダー>

高等教育推進センターでは、2016年度より「モバイル IC カードリーダー」の貸出しを開始しました。これは、FCF キャンパスカードフォーマットに対応した IC カードを読み取り、CSV データとして出力する機能を持っています。本学の学生証もこのフォーマットに対応しており、学籍番号等を読み取ります。

以下の要領で貸出しを行っていますので、授業やセミナー等の出席者管理にご活用ください。

<1. 利用貸出の目的>

授業担当者や各種セミナー等主催者が、モバイル IC カードリーダー PDC-50 を用いて出席者管理を体験いただくことを目的に貸出します。CSV データで出席者の学籍番号等を出力できるため、利用者本人による出席者に関する集計・分析がよりスムーズに行えるようになります。

<2. 対象者>

- 1) 専任教員・任期制の教員・非専任(非常勤)教員
- 2) 教務補佐・実験実習指導補佐
- 3) 職員

<3. 貸出期間・回数>

期間は最長3日間。ただし、貸出3日目が高等教育推進センターの閉室日である場合は、翌開室日が返却期限となります。回数は、原則一人3回まで。それ以上利用を希望する場合は、所属部課または個人で購入いただく等のご検討をお願いします。

<4. 貸出回数>

原則、1回の貸出手続きにつき2台まで。ただし、部課単位のイベント等で貸出手続きをする場合はこの限りではありません。

<5. 貸出手続き>

利用者本人が、高等教育推進センター(第4別館2階)で「モバイル IC カードリーダー貸出簿」に必要事項を記入してください。

※モバイル IC カードリーダーは予約することができます。利用者本人が、電話で高等教育推進センター(0798-54-7420、内線61-31313)へ空き状況を問い合わせの上、予約してください。

<6. 返却>

データのダウンロード後に PDC-50 内のファイルを削除した上で、利用者本人が、返却期限(返却予定日)までに高等教育推進センターのカウンターへ返却してください。



利用者の声(所属部課での購入、個人購入者を含む)

- ・出席データを CSV ファイルで取得できるため、LUNA (LMS) へファイルをアップロードして出席者管理をしています。
- ・学生証をカードリーダーにかざした際、学籍番号が表示されるので、学生には安心感があるようです。また、カウント数も表示されるので、出席者数が一目瞭然と便利です。
- ・履修者が約700名の授業で使用しています。運用開始時は学生側にも戸惑いがあり、カードリーダーに並ぶ渋滞ができていましたが、慣れてくると特段のアナウンスをしなくても自ら学生証をかざしています。
- ・出席カードのソートが大変な手間でしたが、これを使い始めて労力が格段に減りました。
- ・授業開始後20分でカードリーダーを片付けるようにしていますが、学生はそれまでには教室に入りました。出席率も大幅に良くなりました。



<2016年度 第7回FD講演会>

『デジタルネイティブ世代への教育方法を考える ―様々なツールを活用したアクティブラーニング―』

- ◇日 時：2016年11月11日（金）17：10～18：50（受付16：40～）
- ◇会 場：西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館
- ◇講 師：村上 正行氏（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター教授）
- ◇対 象：大学教職員
- ◇申し込み方法

HighEdu@kwansei.ac.jp へ、件名を「FD 講演会」として、以下の内容を明記の上お申し込みください。
（11月4日（金）締切）

- ①お名前 ②所属大学 ③連絡先（E-mail アドレス）

<SD ワークショップ>

『学生の主体的な学びを支えるアカデミック・アドバイジング ～アドバイザーに求められる専門性や教学支援を職員の視点から考える～』

- ◇日 時：2016年11月19日（土）9：30～12：30（受付9：00～）
- ◇会 場：西宮上ヶ原キャンパス大学院1号館会議室1
- ◇講 師：清水 栄子氏（愛媛大学 教育企画室講師）
- ◇定 員：20名（先着順）
- ◇対 象：職員
- ◇申し込み方法

HighEdu@kwansei.ac.jp へ、件名を「SD ワークショップ」として、以下の内容を明記の上お申し込みください。（11月15日（火）締切）

- ①お名前 ②所属大学・部署名 ③連絡先（E-mail アドレス）

◇問い合わせ先

教務機構 高等教育推進センター（担当：佐永田・森本） TEL：0798-54-7420

※個人情報厳重に管理し、プログラム運営管理のためにのみ利用いたします。

お知らせ

2016年度「学生による授業に関する調査」について

本学では、2005年度から統一的な方式で、全学的に学生による「授業に関する調査」を実施しています。2016年度春学期の実施率（マークシート方式）では98.8%（2015年度春学期99.0%）であり、多くの先生方のご協力によりほぼすべての授業で実施されました。

また、2012年度より実施しましたWebによる調査方式では、Webの対象科目のうち学生からの回答があった科目は全体の43.2%（2015年度春学期44.3%）となりました。

本調査の目的は寄せられた評価や意見をもとに、授業担当者が次年度以降の授業内容や授業方法の改善に取り組むことや、授業環境について組織的な改善に結びつけることです。（各学部・センターのFD活動の一例は高等教育推進センターホームページの「各学部のFD活動」をご覧ください。）

秋学期も引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。

◇秋学期の実施スケジュール

<マークシート方式>

2016年12月6日（火）～12月12日（月）[予備期間：12月13日（火）～12月19日（月）]

<Web方式>

2016年12月6日（火）～2017年1月13日（金）

※実施要領・実施科目等の詳細につきましては、11月中旬に各授業担当者にご連絡致します。

高等教育推進センターニュースレター

2016年11月1日

発行：関西学院大学教務機構高等教育推進センター

TEL：0798-54-7420 FAX：0798-54-7421

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155

<http://www.kwansei.ac.jp/cerphe/index.html>

ご意見、ご感想、情報等をお寄せ下さい。寄稿も歓迎致します。✉ HighEdu@kwansei.ac.jp